# 「野尻湖自然観察会」に想う

櫻井　裕

台風１８号の日本列島縦断予報のあった１０月３日、「野尻湖・アファンの森」自然観察会で新大阪駅から名古屋経由で長野へ向かう。３日間が風雨のため予定どおり行動できるかどうか心配であったが、♪そうだ、元気ですよと答えよう♪と『吉田拓郎の元気です』を車中で口ずさむ。

京都駅で田中克先生が「雨男です・・・」と言いつつ参加者２９名が待つ新幹線の車両に乗り込んで来られ、車内が和やかな雰囲気に包まれた。田中先生はかって「雨男」と言われたとご自身おっしゃっているが、今年６月の有明海観察会、９月の平戸島ともに雨に遭うことなく「晴男」に変身。今回もその期待がかかる観察会のスタートになった。

初日はほぼ半日を移動に費やして長野駅到着後、戸隠神社・戸隠森林植物園を回ると早くも辺りは薄暗く、秋の釣瓶落としとはよく言ったものである。

観光バス車中でＮスタッフが参加者を紹介しながら１目目の宿、野尻湖畔の藤屋旅館へと向かう。夕食の席にゲストとしてこの地在住の植村夫妻をお招きした。夫妻は田中先生と十数年前に信濃町のスキー場で知り合い、それ以来の親しい友人とのこと。夕食会、懇親会と夫妻は質問攻めとなり、大いに盛り上がった一夜であった。

「二日目がメインです」と田中先生は言われたが、正にその通りの展開となる。野尻湖ナウマン象博物館の近藤洋一館長が、これほど嬉しく楽しいことはないという風に、しゃべりまくるのである。それがまた、壺を得て面白く随所随所に笑いを放り込んでくるのだ。館長のペースに巻き込まれ、次第に心が弾み出す。野尻湖を船で回り、周囲の丘へと説明が続く。「あっ、こんなことしてちゃ、博物館へ行く時間がなくなっちゃう」と、博物館へと急ぐ。

博物館で館長曰く「僕の夢は、野尻湖から４万年前の人（野尻湖原人）の骨が出ること…」。それがいつになるか分からないが夢を追い求める館長は、希望を胸に、期待を大脳に詰め込んで頑張っている。

私も館長のように夢を持ち、夢を追いかけ♪そうだ、元気ですね♪と答えたい。

３日間気がかりだった天侯は、幸いなことに私たち一行はほとんど雨に遭わず、田中先生の「晴男」は３回連続し、確実となった。

野尻湖遊覧船上で近藤洋一館長の説明を聞く

ナウマンゾウ復元模型